健康の話

長引く鼻づまりや鼻水
～慢性副鼻腔炎 〝ちくのう症〟のお話～

副鼻腔（ふくびくう）とは、鼻の周りにある顔面の骨の中にある空洞です。鼻の中（鼻腔）とつながっていて、頬や額の奥・目と目の間にあります。

この副鼻腔に炎症が起きたものを副鼻腔炎といい、炎症が続くと慢性副鼻腔炎、いわゆる“ちくのう症”といわれます。慢性副鼻腔炎は、原因によって症状や治療法が異なります。おおまかな分類として細菌による化膿性副鼻腔炎とアレルギー性鼻副鼻腔炎に分かれ、その他として特殊なアレルギーによる好酸球性副鼻腔炎や、齲歯（むしば）・真菌（かび）による副鼻腔炎などがあります。

化膿性副鼻腔炎は、風邪などがきっかけとなって鼻の粘膜が炎症を起こし、さらに細菌に感染することが原因です。鼻がつまって、膿のよう鼻水が出たり、鼻水がのどに垂れてくる（後鼻漏）といった症状が出ます。したがって風邪を引いた後、いつまでも鼻がつまって鼻水がのどにおりる、という場合は耳鼻咽喉科を受診するのがよいでしょう。また、同じような症状で、かびによる慢性副鼻腔炎があります。その場合はCTスキャンでの検査や手術が必要となる場合がありますので、耳鼻咽喉科での診察が必要です。

一方、アレルギー性鼻副鼻腔炎は、花粉症などアレルギー性鼻炎の患者さんに合併する副鼻腔炎です。花粉症の薬を飲んでも思うようにすっきりしない場合は副鼻腔炎を合併している可能性がありますので、耳鼻咽喉科での診察をお勧めします。

好酸球性副鼻腔炎は、アレルギーに関与する好酸球という細胞が副鼻腔粘膜に炎症をおこすことにより発症します。粘り気のある鼻水が出たり、鼻たけと呼ばれるポリープが多発し、高度の鼻づまりが続きます。喘息（ぜんそく）持ちの患者さんに多いのも特徴です。好酸球性副鼻腔炎はすっきりと治ることが難しく、国の難病に指定されています。ステロイド治療や手術を組み合わせることによって、うまく付き合っていくことが重要です。また、最近は好酸球によるアレルギー反応に関与するインターロイキンの一部をブロックする注射治療もあります。

まずは耳鼻咽喉科で正確な診断をしてもらい、担当医と治療方針についてよく相談するとよいでしょう。

豊田厚生病院
耳鼻咽喉科代表部長
欄 真一郎

受診のお問い合わせ・豊田厚生病院
TEL (0565)43-5000(代表)